

第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会

はじめに

2013年2月18日、東京にて「第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会(第13回日本カザフスタン経済合同会議を兼ねる)」が開催された。主催は、経済産業省、外務省、日本カザフスタン経済委員会、(一社)ロシアNIS貿易会、カザフスタン共和国産業・新技術省、在日カザフスタン共和国大使館、カザフスタン日本経済委員会であった。

同協議会は2009年10月の第1回(アスタナ開催)、2010年9月の第2回(東京開催)、2011年10月の第3回(アスタナ開催)に続くもので、日本側は佐々木伸彦・経済産業審議官、中原秀人・日本カザフスタン経済委員会会長ほか、政府機関および商社、メーカー、銀行などから約180名、カザフスタン側からはイセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣、ジャクサリエフ産業・新技術省次官ほか政府機関関係者とエシムベコフ商工会議所会頭ら企業関係者合わせて130名、合計300名を越す参加者を集め、過去最大規模の協議会となった。

イセケシェフ副首相の訪日に合わせて行われた今回の協議会は、直前に日本・カザフスタン投資協定が実質合意に至ったことを受けて、両国の経済協力関係のさらなる深化を期待させる有意義な意見交換の場となった。

以下では、イセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣の発言内容を掲載するとともに、事務局を担当したロシアNIS貿易会より協議会の概要について紹介する。

1. イセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣スピーチ

第4回協議会には、前年度に引き続き、イセケシェフ副首相兼産業・新技術大臣が出席し、開会挨拶を行った。大臣自ら、両国の経済関係発展に向けた大きな期待を、より具体的な分野について言及しつつ、語った。録音記録に基づく全文を以下に掲載する。



皆様、こんにちは。尊敬する共同議長、尊敬するご列席の皆様。カザフスタンを代表してご挨拶を申し上げます。

まず、皆様の温かい歓迎に御礼申し上げます。ありがとうございます。本日の官民合同協議会は非常に重要で有益な会合になるものと考えております。今後の日本とカザフスタンとの協力関係の活発化と、新しい方向に向けての発展につながることを期待されるからです。

前回の協議会は、2011年10月にアスタナで行われました。またその後（注：2012年5月）、当時の（注：枝野）経済産業大臣にご訪問いただき、「経済・投資関係促進ロードマップ」が作成されるなど、二国間の協力関係の発展における非常に重要な節目となりました。

2012年、両国間の貿易は約20%伸び、20億ドルに達しました（注：日本の通関統計では約11億ドル）。しかし、この数字は両国間の大きなポテンシャルには、まだまだ見合っていないと思います。この点は、ナザルバエフ大統領訪日の際のビジネス界や政府関係者の皆様との会談でも話題となりました。今後、両国の経済関係はもっと伸びる可能性があると考えています。

現在、日本とカザフスタン双方が進めているところの「ロードマップ」には約45の共同プロジェクトが取り上げられています。いずれも具体的な検討・推進が期待されるわけですが、なかには既に実施に移され、現状にインパクトを

与えているものもあります。

例えば昨年、我々にとって非常に重要な、カザトムプロムと住友商事によるレアメタル・レアアース分野の共同プロジェクトが実現しました。今後の順調な発展が期待されています。同様に原子力分野では、日本企業との間で複数のプロジェクトが進行中です。また、まさに1週間前、やはり我々にとって極めて重要な、カザフスタンにおけるトヨタ車の生産に関する協定がトヨタ自動車との間で結ばれました。その他、成功裏に進んでいるプロジェクトとして、ウラン採掘、核燃料の生産・供給、既に申し上げたレアメタル生産、いくつかのエネルギー分野におけるプロジェクト、また機械製造分野のものなどがあります。

強調したいことは、カザフスタンが日本との協力関係を、戦略的パートナーシップという新しいレベルへぜひとも発展させたいと考えていることです。

現在、カザフスタンの政治・経済は非常に安定しています。昨年の経済成長率は約5%であり、今後も成長の持続が期待されています。2013年は、カシャガン鉱区で石油生産が開始される予定でもあります。

また、現在のカザフスタンの市場は、大変興味深いものとなっております。ロシア、ベラルーシと関税同盟を結んだことにより、1億人以上の人口を擁する大きな経済空間、市場の一部となっているからです。我々はWTO加盟も目指しています。こうした立場を活かし、カザフスタンは、この地域における日本企業の投資・技術のハブの役割をしていきたい。カザフスタンはOECDの投資委員会にも参加しています。将来的にこの地域で一番良い投資環境、日本の投資家の皆様が活動しやすい環境を構築していきたいと考えているのです。

中央アジアの外国直接投資の約80%がカザフスタンに流入しています。現在、我が国では

1万社以上の外資系企業が活動中ですが、「フォーチュン500」に掲載されるような有名企業も少なくありません。遂行中の産業政策、経済多角化政策の枠内で多くの企業がプロジェクトを推進しており、それには米国のGE、フランスのアルストム、イタリアのサイペム等の世界的大企業が含まれます。カザフスタンは人口1人当たりの外国直接投資受け入れ額で、旧ソ連圏第1位を誇ります。

一連の世界の権威ある専門家たちにより、昨年、カザフスタンは世界で最も経済成長している国として、中国、カタールに続く3位にランクづけられました。最新の世界銀行のランキングでは、ビジネス環境向上に最も成功した国として、上位10位のうちに入りました。過去数年におけるこうした成果は、非石油分野の発展を目指す大統領の産業化プログラムの方針によって達成されているのです。

投資家のための改善として、我々はロジスティクス分野の発展にも取り組んでいます。特に、中国と欧州を結ぶトランジット機能向上のため、自動車道路と鉄道の建設を進めています。現在、インフラ整備プログラムが策定中ですが、そこにも自動車道路や鉄道、空港の建設が含まれています。2つの大きな産業ロジスティクス・ゾーンの建設も進められており、1つは中国国境、もう1つはカスピ海沿岸に整備される予定です。

昨年12月、大統領は国民に対する教書演説として2050年までの新しい国家発展戦略の方針を発表しました。それによれば、カザフスタンにとっての重要課題は、経済多様化を通じた経済発展、そのための経済各部門におけるクラスターの形成、そして国内における高度加工、最終製品生産の実現です。特に高度加工技術の導入が重要視されており、冶金、機械製造、石油化学、エネルギー、農業、運輸等が優先分野となっています。

こうしたなか、日本企業の参加を希望する具体的な分野をいくつかあげるとするならば、それはまず化学分野です。現在、化学分野のプログラムは大きく発展しており、マスタープランが策定され、50の優先品目が選定されました。また、3つの化学パークが、タラズ、パヴロダル、アティラウに設置されます。つまり、南部、北部、西部の3か所です。

西のパークでは主に石油・ガス精製、またポリプロピレン・ポリエチレンの生産工場が既に建設されており、今後はブタン、メタン、その他複雑な化学製品も生産できる工場の建設を目指しています。南部に関しては、特に化学肥料を含む農業生産のための化学製品、また冶金や建設分野で使用される化学製品の生産を想定しています。一方、より多岐にわたる化学製品が生産される予定なのが、北部パヴロダル州の化学クラスターで、例えばアルキド樹脂、ポリエチレン樹脂等、様々な製品が検討されています。

このように化学分野には様々なプロジェクトがあり、ロシアのエプロヒム、韓国のLGケミカルのような大企業、またドイツやUAE等から既に多くの投資家が参加しています。他の大型プロジェクトにも、丸紅をはじめとする多くの企業に関心を示しておられますが、積極的な進出をお待ちしております。

また、冶金部門はカザフスタンで非常に重要な、大きなセクターです。国内において鉄鋼、銅、亜鉛、金等、様々な金属が生産されています。年内には我が国で生産される全ての鉱石の加工が可能な、金の精錬コンビナートの建設が完了する予定であり、これを積極的に発展させていきたいと考えております。

さらに検討しているのが、金属の高度精錬・加工技術の導入で、この枠内でアルミニウムクラスターの形成も計画中です。例えば高温耐性のあるアルミニウム合金材、合板、アルミケー

ブルの生産で、これらを用いた自動車エンジン用部品の製造等も視野に入っております。また、機械部品の鉄の加工や、新しい合金の生産も我々にとって重要な課題ですので、積極的に検討していく予定です。課題達成のためには投資家の誘致が必要ですが、特に、非常に高い技術を持っておられる日本企業の進出に、強い期待を抱いております。

カザフスタンにとって、地下資源部門の発展と、採掘による残滓・廃棄物の処理・加工も重要です。地下資源分野においては現在、様々な形で改革がなされています。最も先進的な技術を持つ世界の大企業や組織と協力を進めておりますが、地質探査や地下資源採掘分野における協力を日本企業とも協議したいと思っております。地下資源に関わる加工クラスターは、極めて興味深く、将来性が見込まれる分野です。カザフスタンでは長年の開発の結果、鉱山をはじめ、エネルギー・冶金・化学分野の企業に蓄積された廃棄物の中に大量の鉱物資源が眠っており、またその量は年々増えています。こうした資源の回収・利用率を高め、特にレアメタルやレアアースを最大限に利用できるようになることを希望しています。

機械製造分野においては、すでに述べたようにトヨタとの協力が始まりました。この分野の投資家には、今後、ロシア・CIS諸国を統一市場と見做していただきたい。例えばカザフスタンでは現在、鉄道分野の機械製造業が急成長しておりますが、GEとは機関車製造、アルストムとは貨車の製造、スペインのタルゴとは客車生産といったように多くの共同プロジェクトが進行し、製品の輸出が行われています。また、韓国、ロシア、チェコとの自動車製造、フランスのEADCのユーロコプター製品の生産、小型飛行機の製造等が検討されており、いずれも重要な部門です。コンバイン等、農業機械の製造に関しても協力の可能性があります。機械産業

分野の発展に対する我が国の熱意を感じていただきたいと思います。

また、我々が特に関心を持っているのがこれらの機械の部品生産であり、この分野における日本企業とのパートナーシップ構築に期待しています。日本企業とタイアップ可能なカザフ側パートナーとして、本日の会議には国営企業「カザフスタンエンジニアリング」が参加しています。すでに様々なプロジェクト実現に着手しておりますが、同時に投資家を求めています。特に電力部門に関わる機械製造、例えば老朽化した火力発電の近代化や、工作機械製造、さらにロボット技術についても日本との協力を希望します。

我が国では経済多角化政策に基づき、産業分野の技術改革を推進しており、システム化された最先端技術に関心を持っています。カザフスタンは省エネ、エネルギー効率の向上への取り組みを開始し、そのために新しい大型のプログラム、一連の法律を策定しました。特に日本の経験も活用しつつ、現在は国家プログラム「省エネ2020」を策定中です。本日から明日へかけての協議、面談のなかで、我々は最大限学び、かつエネルギー・省エネ部門における対話が進み、日本のパートナーを見出すことができることを期待しています。我が国のプラント設備には近代化が必要であり、省エネ先端技術、グリーンテクノロジーの導入のもとに高い生産性を実現し、合理的なエネルギー資源の活用を目指したいのです。

ここで指摘しておきたいことは、カザフスタンは2017年の国際万博「アスタナ・エキスポ2017」の開催国となりました。万博のテーマは「未来のエネルギー」ですので、我が国はグリーンエネルギー、再生可能エネルギー、エネルギー効率に関すること全てに関心をもち、積極的にこれを発展させるための協議を進めていく所存です。

次に、我々が関心を持っている対象はイノベーション技術です。我々はカザフスタンにおいて科学技術フォーサイトを実施し、2020年までにカザフスタン経済のために発展させるべき75の重要技術を選定しました。特に新素材、再生可能エネルギー、生産の自動化・無人化技術等は、ぜひとも日本と効果的な協力を期待したい分野です。我が国政府には支援の用意がありますので、投資と案件推進の両面で日本との協力が進んでいくことを強く希望します。日本の技術が我が国の国家プロジェクト実現に、積極的に貢献してくださることを願っています。

今回、カザフスタンからは大きな代表団が来日しました。140の組織から参加しています。ビジネス代表団、地方の知事や副知事、国営企業や研究所の代表、省庁の政策担当者等は本日の分科会で議論される分野に関して、新しい合意に至ることを目指していますので、どうぞよろしくお願い致します。

改めて申し上げますが、カザフスタンは経済分野において、日本と新しい戦略的な関係に入ることを望んでいます。そのために、我が国は投資誘致計画において、日本との協力を最優先していきたい。例えば査証の問題、高度技術をもつ外国人労働許可の問題等々、ネックになっている多くの問題解決に精力的に取り組んでいく所存です。それによって日本の投資家の皆様がカザフスタンに進出し、仕事がしやすくなる環境にしていきたいのです。特に、交渉中の投資協定については、全ての法的環境の基盤として必要なものですから、これが一日も早く調印に至ることを望みます。

この数年、喜ばしいことには、カザフスタンに住友、トヨタ、東芝といった日本の大企業が進出し、設備供給者としてではなく、投資家としてご活躍いただいています。次の大きなプロジェクトが待ち受けておりますので、住友、東芝、トヨタに続いて、伊藤忠、丸紅、三井、三

菱といった大企業にも、午後に議論される具体的分野のプロジェクトに参入してきていただきたい。日本の大手企業、7～8社ほどが投資をすれば、それに続いて中小企業もカザフスタンに進出する可能性があるでしょう。それは急速に発展する新しい市場を開拓することにつながります。

我々は、カザフスタンに日本のための特別な産業特区を創設する議論がなされることを期待しています。現行の我が国の法律では、国際企業が管理する特区の創設が認められておりますので、日本の中小企業が進出し、旧ソ連圏で進行中の大掛かりな経済的変革に積極的に参画する可能性ができればと考えております。企業との協力以外に、技術分野でNEDO、人材育成でJICA、マーケティングでJETRO、融資分野でJBIC等、日本の国家機関との間の協力をさらに進め、両国間の協力制度を構築していきたいと思えます。例えば公務員の人材育成、中小企業育成支援、産業技術発展の支援、またコストの小さい融資制度の構築支援といった分野についてであります。

カザフスタンにとって、そしてカザフスタン国民にとって、日本は「質」という点でナンバーワンの国です。日本の設計家の故・黒川紀章さんは、カザフスタンの新しい首都のゼロからの建設に大きな貢献をしてくださいました。これは偶然ではありません。「富士山」に始まり、「相撲」、「桜」、「侍」などの言葉はカザフスタンでもよく知られています。カザフスタンは、日本の文化を心から尊敬しており、より近い関係において一緒に仕事をすることを望んでいるのです。

最後に、古いことわざに「強い風が吹く時は、壁を築くのではなく、それに乗って飛躍すべきだ」という意味の言葉があります。現在、中央アジアを含む旧ソ連地域においては変革の風が強く吹き、大掛かりな経済プログラム、大規

模な建設、大きな統合プロセスが進んでいます。この風の中で、カザフスタンが日本企業にとって新しい成長の可能性を求める中心の地となることを期待します。

本日の合同協議会の成功をお祈りします。ありがとうございます、また会いましょう。

2. 第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会の開催概要

(1) 開会挨拶

日本側議長、佐々木伸彦経済産業審議官は、両国間の貿易額や投資額など具体的な数字を挙げ、両国の経済関係の発展の成果について言及するとともに、カザフスタン側からの引き続き積極的な情報提供やさらなる投資環境の改善に対する期待を表明した。また、本協議会について、「両国の政府、民間の関係者が、ビジネスを通じた協力の可能性について幅広く直接的に意見交換できる大変貴重な機会である」と高く評価した。

中原秀人・日本カザフスタン経済委員会会長は、イセケシェフ副首相の挨拶を受けて、「カザフスタンとのお付き合いにおいては、単に資源・エネルギーのみならず、技術、さらには雇用を含む大きな交流を進めていきたい」、「民間企業としてできることをやっていきたい」と日本とカザフスタンの経済関係のさらなる強化に向けた熱意を伝えた。

エシムベコフ商工会議所会頭は、カザフスタンが新しい経済の時代を迎えているとして、具体的な目標として、資源の有効活用、地方の発展、中小企業の基盤整備を挙げた。そして、「協議会の中で新たな良い案件が生まれ、新たな交流ができることを心から期待申し上げます」と述べた。

(2) 全体会合

続く全体会合では、津田隆好・経済産業省ロ

シア・中央アジア・コーカサス室長より、第3回の協議会から本協議会までの1年半の両国間の経済動向について報告が行われ、今後の両国の経済関係の深化に向けて、「投資協定」の早期署名および発効、カザフスタンにおける労働許可制度の改善、ロードマップを通じた協力プロジェクト案件形成などに対する期待が述べられた。

カザフ側協議会議長、ジャクサリエフ産業・新技術省次官は、日本が持つ技術やノウハウをカザフスタンに受け入れていきたいとして、イノベーション技術分野での協力の進展を願った。

舟田豊・国際協力銀行資源・環境ファイナンス部門原子力・新エネルギー部部長は、カザフスタンにおけるJBICの活動について報告した。アティラウ製油所の近代化プロジェクトやカザトムプロムとの包括的な業務協力に係る覚書の締結など、最近の協力事例を紹介し、「今後もカザフスタンにおける日本企業の事業機会創出およびビジネス促進に努めるとともに、両国間の緊密な経済関係の一層の深化・発展に協力して参りたい」と語った。

(3) 第1分科会「資源開発分野における協力発展の可能性」

第1分科会「資源開発分野における協力発展の可能性」では、初めにアリフハノフ・カザトムプロム副社長が原子力およびレアメタル分野における日本との協力実績について紹介した。また、再生可能エネルギーの分野でも日本企業との協力をしていきたいという期待を表明した。

イスカリエフ・ジャンピル州副知事は、同州の投資の魅力について説明した。同州は豊富な天然資源の中でも、特に化学産業の発展が期待されており、経済特区「タラズ」の建設が予定されている。

コスパノフ「カズクロム」戦略イノベーション発展局局長は、カザフスタンが世界有数のフェロアロイ、フェロクロム生産国であると紹介し、生産の現状と日本企業との協力の実例、日本企業との協力の可能性について語った。

「カズフォスファト」のプシュタエフ社長は、化学製品の資源採掘、加工、輸出の全行程を実施する同社の活動について報告し、新しいプロジェクトの実現、新しい技術の導入、生産現場の近代化への日本企業の参加に対する期待を述べた。

安永裕幸・経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課課長は日本の鉱物資源政策およびカザフスタンとの関わりについて説明した。資源をほとんど持たない日本にとっては、海外において日本企業が開発等に参加する鉱山からの鉱石、国内の使用済み燃料のリサイクルによって「金属の自給率」を高めることが目標である。日本企業の海外投資に対する政府の支援が政策の柱であり、特にファイナンス面での支援に力を入れている。ブラジルの事例を挙げながら具体的な説明をした安永課長は、カザフスタンとの関係においては「お互いにとってプラスになるようなプロジェクトをもっとたくさん発掘したい」として報告を締めくくった。

(4) 第2分科会「イノベーション技術、産業協力発展の可能性」

第2分科会では、クリセイトフ国家技術開発庁議長がイノベーションビジネスに対する支援策について説明した。2012年に採択された産業イノベーション活動国家支援法に基づき、同庁はファイナンス面でのイノベーションプロジェクト実施の支援、イノベーションテクノパークにおける優遇税制を実施している。また、カザフスタン国内7地域に事務所を構えるほか、韓国やフランスにもオフィスを展開しており、日本にも開設したいと語った。国連、米国、

韓国、ドイツ、ロシアなどと強力なパートナーシップ関係にあり、日本企業とも協力を進めていきたいと期待を表明した。

佐藤歩・伊藤忠商事モスクワ事務所繊維部部长はカザフスタンにおける繊維産業発展に対する提案として「合繊化」について説明した。合成繊維の世界的な需要が急激に伸びていることが指摘され、カザフスタンの強みである石油産業から得られるポリエステルの生産を行うことで国内の繊維産業を強化できる。さらに原料から糸、生地、製品の生産まで行うことで付加価値を高め、国の経済にも大きく貢献することが可能であると語った。

KT Cloud Labのダウンバエフ社長は、同社が展開する経済特区「イノベーション・テクノロジー・パーク」とそこでの事業展開について説明した。同社は経済特区内にICTセンターを設置し、入居する企業に対する情報通信サービスを提供することになる。

Medical Excellence JAPAN (MEJ) の北野選也代表理事と麻田麻奈・日本エマージェンシーアシスタンス(株) 国際医療事業部スーパーバイザーは、日本の医療の国際化事業について説明した。MEJは日本の医療技術の輸出、日本への治療のための患者の受入といったインバウンドとアウトバウンド両面の事業を展開しており、人材育成や情報提供を実施している。2011年10月にアルマティで医療セミナーを実施したものの、具体的な実績がまだないカザフスタンとのあいだで、「人的交流、医療機器、施設の提供まで両国の関係が築ければ」と語った。

トランスコスモスの森田祐行理事はカザフスタンにおける同社の事業について説明し、進出の魅力を語った。

エディゲノフ・アルマティ重機工場社長は、自社で生産している製品について説明し、過去に納入実績がある日本企業に対して、設備を購

入してほしいと語った。

NECと北海道総合研究調査会による共同の報告では、農業の生産性向上に向けた取り組みについて報告が行われた。広大な耕地面積を持ち、品質の高い小麦を生産するカザフスタンは食糧安全保障上、非常に重要な国の1つであるが、収穫率に関する課題などを抱えており、ここに日本の技術、カザフスタンに最適な技術を広めることで、この分野の発展に対する支援の可能性があると説明した。

(5) 第3分科会「環境・エネルギー分野における協力発展の可能性」

第3分科会では、モデレーターを務める藤井敏彦・経済産業省資源エネルギー庁エネルギー交渉官から日本の原子力政策とカザフスタンとの協力について報告が行われた。藤井課長は、2006年頃から続く両国のハイレベルな政治リーダーの往来を通じて、日本とカザフスタンとのあいだでは頻繁にコミュニケーションがとられており、両国の協力関係には具体的な成果が出ていることを、日本のウランの輸入先の比率を例に挙げて説明し、今後も協力関係が円滑に進むようにできる限りのことをするという意思を表明した。

続いて、ジャクサリエフ産業・新技術省次官は自分が省内で管轄する電力分野について、日本とカザフスタンの協力の可能性を語った。天然資源が豊富なカザフスタンであるが、資源に依存することなく、太陽光や風力発電などの再生可能エネルギー、原子力分野などの発展が重要であり、日本からのこれらの分野に対する投資に対する期待を表明した。

NEC交通・公共ネットワーク事業部第三システム部の遊佐道彦部長は、NECが取り組んでいる高速道路のITS技術について紹介した。道路整備が計画されているカザフスタンにおいて「日本の高速道路の技術が応用できるのでは

ないか」という考えを述べた。

モムィナリエフ国立バイオ技術センター所長は、バイオエネルギー利用におけるカザフスタンの現状と、現在進められている研究開発について説明し、同分野の設備導入、実証実験の実施、専門家の育成などで日本との協力に向けた期待を表明した。

アビュロヴァ・KSPスチール代表は、同社が生産する主要製品であるシームレスパイプの品質について説明した。

ムハノフ・Business Developmentギドロマシ・オリオン社長は、同社が生産する電力、石油ガス、航空機など様々な分野の設備について紹介し、現在は、それらのメンテナンスを行うサービスセンターの設置を検討していることを説明した。すでに北米、東欧、ロシアの会社と協力しており、今後は日本との協力にも期待を表明した。

(6) 第4分科会「カザフスタン地方開発における協力発展の可能性」

第4分科会では、高橋幸二・経済産業省中小企業庁国際室代表が日本の中小企業政策について、制度的側面、官民の政策実施機関、具体的な支援の事例などについて紹介した。

次に、トムピエフ・カザフスタン建材工業協会会長はカザフスタンの建材・鉱物資源市場の概要について語った。資源の豊富なカザフスタンであるが、エンジニアリング関係の人材不足と最新のイノベーション技術導入という課題を抱えており、そこに日本との協力を呼びかけたいと語った。

モデレーターを務めたエシムベコフ商工会議所会頭は、カザフスタンと日本のビジネス協力発展の展望について、30年間日本と仕事をしてきた自らの経験から、日本企業が積極的にカザフスタンにおいて協力を進めてきたことに感謝を表明し、しかし、ポテンシャルは十分に

活用されておらず、韓国や中国がより積極的に進出していると説明した。「すでに日本の専門家がカザフスタンで活動していること、お互いに好意を持っていることなどの条件をもとに、今後の協力を大きな期待ができるのではないか」と語った。

カザフスタン日本経済委員会議長であるエシムベコフ会頭の報告を受けて、日本カザフスタン経済委員会の会長会社である三菱商事(株)の企画業務部欧阿中東CISチーム齋藤裕和次長は、今回の協議会に100名以上のカザフ人が

参加したことに対するエシムベコフ会頭の尽力に感謝するとともに、同協議会がこれまでで最も実のある協議会になっていると語った。そして、カザフスタンでビジネスを展開するために、カザフスタンの企業はカザフスタンの魅力をより多く宣伝するよう提案し、日本企業に対しては、「カザフ企業の声を誠実に聞いてほしい」と語った。そして最後に、「日本人とカザフ人との人と人がより深くお互いを知り、お互いのためにビジネスができるように」と今後の両国関係の深化に対する期待を表明した。

第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会プログラム

時間	プログラム
12:30-13:00	レジストレーション
13:00-13:55 [全体会合]	<p>【テーマ】「日本・カザフスタン経済関係発展における優先課題と重点分野 —共通理解の構築に向けて」</p> <p>□会場: スターホール(2F) ◇モデレーター: 津田隆好・経済産業省ロシア・中央アジア・コーカサス室長</p> <hr/> <p>◆開会挨拶</p> <p>13:00-13:05 日本側政府代表 佐々木・経済産業審議官／協議会日本側議長 13:05-13:10 A.イセケシェフ副首相／産業・新技術大臣 13:10-13:15 中原秀人・日本カザフスタン経済委員会会長／協議会日本側副議長 13:15-13:20 S.エシムベコフ・カザフスタン日本経済委員会会長／協議会カザフ側副議長</p> <hr/> <p>◆報告</p> <p>13:20-13:30 津田隆好・経済産業省ロシア・中央アジア・コーカサス室長 「日本とカザフスタンの経済関係深化のために～現在と未来における協力」 13:30-13:45 カザフスタン側政府代表 B.ジャクサリエフ産業・新技術省次官 ／協議会カザフスタン側議長 13:45-13:55 舟田豊・(株)国際協力銀行資源・環境ファイナンス部門 原子力・新エネルギー一部部長 「カザフスタンにおけるJBIC～金融分野における協力強化」</p>
13:55-14:30	コーヒーブレイク(於: 2Fロビーホール)
14:30-16:00 [テーマ別 分科会]	<p>【第1分科会】「資源開発分野における協力発展の可能性」</p> <p>◇テーマ: ウラン採掘・加工、石油・ガス開発、レアメタル・レアアース、金属採掘・加工等 □会場: オリオンルーム(2F) ◇モデレーター: 橋本諭・経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課課長補佐</p>

	<p>◆報告</p> <p>14:30-14:40 A.アリフハノフ・AOカザトムプロム副社長</p> <p>14:40-14:50 G.イスカリエフ・ジャンビル州副知事 「ジャンビル州への投資の可能性」</p> <p>14:50-15:00 M.コスパノフ・多国籍企業「カズクロム」戦略イノベーション発展局局长 「企業発展コンセプトにおけるエネルギー再利用および産業廃棄物の利用」</p> <p>15:00-15:10 R.プシュタエフ・LLP「カズフォスファト」社長 「カズフォスファト—投資の可能性」</p> <p>15:10-15:25 安永裕幸・経済産業省資源エネルギー庁鉱物資源課課長 「日本の鉱物資源政策」</p> <p>15:25-16:00 質疑応答</p>
	<p>【第2分科会】「イノベーション技術、産業協力発展の可能性」</p> <p>◇テーマ: IT・通信、機械製造、宇宙、医療・バイオ、ITS、他</p> <p>□会場: 松風の間(3F)</p> <p>◇モデレーター: S.エシムベコフ・カザフスタン共和国商工会議所会頭</p> <p>◆報告</p> <p>14:30-14:40 A.クリセイトフ・AO「国家技術開発庁」議長 「カザフスタンにおけるイノベーションビジネスの支援策」</p> <p>14:40-14:50 佐藤歩・伊藤忠商事 モスクワ事務所 繊維部部長 「カザフスタン繊維産業における『合繊化』」</p> <p>14:50-15:00 A.ドゥンバエフ・TOO「KT Colud Lab」社長 「経済特区『イノベーション・テクノロジー・パーク』における ICTセンターを基盤とした協力の可能性」</p> <p>15:00-15:10 北野選也 Medical Excellence JAPAN 代表理事 麻田麻奈・日本エマーゲンシーアシスタンス株式会社 国際医療事業部スーパイザー 「日本の医療国際化事業について」</p> <p>15:10-15:20 森田祐行・トランスコスモス(株) 理事 「カザフスタンにおけるトランスコスモスの事業」</p> <p>15:20-15:30 エディゲノフ・AO「アルマティ重機工場」社長 「アルマティ重機工場～品質的優位性と長年の経験」</p> <p>15:30-15:40 荻窪一宏 NEC ビジネスインキュベーション本部マネージャー 神谷憲一 (一社)北海道総合研究調査会(HIT)情報企画部 主任研究員 「農業生産性向上への取組み」</p> <p>15:40-16:00 質疑応答</p>
16:00-16:15	休憩
16:15-17:45	<p>【第3分科会】環境・エネルギー分野における協力発展の可能性</p> <p>◇テーマ: 環境・省エネ技術、再生可能エネルギー、原子力他</p> <p>□会場: 松風の間(3F)</p> <p>◇モデレーター: 藤井敏彦・経済産業省資源エネルギー庁エネルギー交渉官</p>

	<p>◆報告</p> <p>16:15-16:25 藤井敏彦・経済産業省資源エネルギー庁エネルギー交渉官 「日本の原子力政策とカザフスタン共和国との協力」</p> <p>16:25-16:35 ジャクサリエフ・産業・新技術省次官 「電力分野における協力の可能性」</p> <p>16:35-16:45 遊佐道彦・日本電気株式会社(NEC) 交通・公共ネットワーク事業部第三システム部部长 「NECのITSソリューションのご紹介」</p> <p>16:45-16:55 K.モムィナリエフ・教育・科学省「国立バイオ技術センター」所長 「カザフスタンにおけるイノベーションプロセスの一部としての バイオエネルギーの発展」</p> <p>16:55-17:05 D.アビュロヴァ・TOO「KSPスチール」代表 「石油ガス工業用シームレスパイプ生産」</p> <p>17:05-17:15 N.ムハノフ・TOO「Business Development ギドロマシ・オリオン」社長 「西カザフスタン機械製造会社を基盤とした航空・電力需要向けの ハイテク・ガスタービン機械製造サービスセンターの組織」</p> <p>17:15-17:45 質疑応答</p>
	<p>【第4分科会】「カザフスタン地方開発における協力発展の可能性」</p> <p>◇テーマ:カザフスタンの地方開発政策および関連プロジェクト、中小企業支援政策、他</p> <p>□会場:オリオンルーム(2F)</p> <p>◇モデレーター:エシムベコフ・カザフスタン商工会議所会頭</p> <p>◆報告</p> <p>16:15-16:25 高橋幸二・経済産業省中小企業庁国際室 「日本の中小企業政策」</p> <p>16:25-16:35 M.トムピエフ・カザフスタン建材工業協会会長 「カザフスタン共和国の建材・鉱物資源市場の概要」</p> <p>16:35-16:50 エシムベコフ・カザフスタン商工会議所会頭 「カザフスタンと日本のビジネス協力発展の展望」</p> <p>16:50-17:00 ◇コメント:齋藤裕和・三菱商事(株)企画業務部 欧阿中東CISチーム次長</p> <p>17:00-17:45 総括/質疑応答</p>
17:45-18:00	休憩/調印式準備
18:00-18:30	<p>◆調印式</p> <p>□会場:スターホール(2F)</p> <p>* イセケシェフ副首相兼産業・新技術省大臣立ち合い(P)</p>
18:30-20:00	<p>◆日本側主催レセプション</p> <p>□会場:スターホール(2F)</p> <p>◇開会挨拶 エシムベコフ・協議会カザフスタン側副議長</p> <p>◇乾杯 中原秀人・協議会日本側副議長</p>

3. B2Bと署名式

分科会終了後には署名式が行われた。以下、署名が行われた文書の一覧である。

第4回日本カザフスタン官民合同協議会にて調印された文書一覧(当日調印順)

1. 第4回日本カザフスタン経済官民合同協議会議事録

協議会日本側議長 佐々木伸彦経済産業審議官

協議会カザフスタン側議長 Bジャクサリエフ産業・新技術省次官

2. 第13回日本カザフスタン経済合同会議議定書

日本カザフスタン経済委員会会長 中原秀人

カザフスタン日本経済委員会会長 Sエシムベコフ

3. 伊藤忠商事㈱とDala Mining社間のコクテンコール・モリブデン、タングステンプロジェクトに関わる共同推進協定

伊藤忠商事㈱ 今井重利鉄鉱石・製鉄資源部 部長

Dala Mining F.エルガリエフ社長

4. 有限国営会社「統合化学会社(UGC)」と丸紅㈱の相互協力に関する合意書

丸紅㈱ 川寄正康化学品部門 部門長代行

有限国営会社「統合化学会社(UGC)」 K.ヌルタエフ取締役

5. KSP Steel、JFEスチール株式会社、伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社間のビジネスパートナーシップに関する覚書

JFEスチール㈱ 姉崎満エネルギー鋼材輸出部部長

伊藤忠丸紅鉄鋼㈱ 兼田智仁執行役員、鋼管本部長

KSP Steel E.クレイメル社長

6. 宏輝システムズ㈱とカザフスタン共和国ジャンビル州政府と相互理解に関する覚書

宏輝システムズ㈱ 光寺弘幸代表取締役社長

ジャンビル州 G.イスカリエフ副知事

7. カザフスタンにおける電力セクターでの協働に関する覚書

住友商事㈱ 兵頭誠之執行役員、電力インフラ事業本部長

カズネクスインヴェスト A.カスキルベコワ・アジア諸国地域部長

8. 東京製綱㈱とサムルク・カズィナ・インベストとの間の追加了解覚書

東京製綱㈱ 田中重人会長

サムルク・カズィナ・インベスト D.イスカコフ社長

9. 将来の原子力エネルギー・産業創生に関する研究開発における協力のための日本原子力研究開発機構とカザフスタン国立原子力センターとの間の覚書

(独) 日本原子力研究開発機構 鈴木篤之理事長

カザフスタン共和国国立原子力センター E.バティルベコフ総裁

10. 「カザフスタン国立原子力センター(NNC)」と日本原子力発電㈱、丸紅ユティリティ・サービス㈱の協力に関する覚書

日本原子力発電㈱ 濱田康男取締役社長

丸紅ユティリティ・サービス㈱ 岩見哲朗代表取締役社長

カザフスタン共和国国立原子力センター E.バティルベコフ総裁

11. ㈱ファイテックとカザフスタン共和国非常事態省「火災安全・民間防衛科学研究所」株式会社との協力に関する覚書

㈱ファイテック 林富徳代表取締役

カザフスタン共和国非常事態省株式会社「火災安全・民間防衛科学研究所」 R.ジュマガリエフ社長

12. 千代田コンサルティング㈱とカズネクスインヴェストとの協力に関する覚書

千代田コンサルティング㈱ 中田裕代表取締役

カズネクスインヴェスト A.カスキルベコワ・アジア諸国地域部長

おわりに

この場をお借りし、今回の第4回協議会開催にあたり、ご尽力、ご協力いただいた関係者の皆様ならびにご報告者、ご参加者の皆様へ事務局一同心より感謝申し上げます。

なお、本協議会の主な報告については参加者専用サイトに掲載したので、ご参照願いたい。

<http://www.jp-kz.org/conference/materials4/materials4.html>

(構成：中馬 瑞貴)